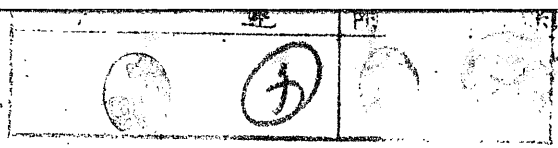


4-1

95



名支業第六一〇號
 (添) 書 省 略

留守業務部長殿

昭和二十七年
 分 月 報
 調査整理月報

昭和二十七年三月十日
 中部復員連絡局名古屋支部

受付
 第 5275 号
 27. 4. 1.
 留第二課

0242

目次

- 一 世話認別復員状況一覽表 其の一・二・三 別紙 第一
- 二 地域別復員状況一覽表(A) 〃 〃 第二
- 三 ソ連關係地域當月處理(増減)詳細表(B) 〃 〃 第三
- 四 主要業務處理状況一覽表(A、B) 〃 〃 第四
- 五 當月實施した調査完明關係の主要行事に基く將來の参考意見 〃 〃 第六
- 参考 ソ連關係地域の各軍別米復員者状況一覽表 〃 〃 第七
- 資料 入手手段統計表 〃 〃 第八
- 當月主要來翰(部隊資料)一覽表 〃 〃 第九
- 月報附録 知事の着意を必要とする調査完明の事例集 其の四 〃 〃 〃

配布区分

復員局	一	留寄業務部	五	東京出張所	一	北海道世話課	一
仙台支部	一	東	復	中	復	廣島支部	一
善通寺支部	一	西	復	管内世話課	各		一

別紙第一

世話課別復員状況一覽表

名古屋支部
昭和22年2月末調

0244

その一 ソ連関係地域

世 話 課 別	A 當月末迄處理済計			B 當月末迄復員數						A+B 合計	
	歸還	死亡	計	生存見込	死亡見込	死推定	狀況不明				
							有資料	無資料	小計		
愛知	15,430	2,888	18,318	249	49	0	(1,033)	(132)	1,165	1,463	19,781
静岡	12,923	(1)	15,405	176	73	2	(509)	(92)	1,201	1,252	16,658
岐阜	8,421	1,590	10,011	120	65	2	(522)	(45)	577	764	10,775
三重	7,411	(1)	8,517	121	25	0	(407)	(50)	457	603	9,121
石川	6,791	815	7,606	130	124	0	(472)	(32)	504	758	8,364
富山	8,426	(2)	9,266	133	78	0	(388)	(31)	419	630	9,898
計	59,402	9,721	69,123	929	414	4	(3,741)	(382)	4,123	5,470	74,593

その二 ソ連関係以外の地域及び地域不明

世 話 課 別	A 當月末迄處理済計			B 當月末迄復員數						A+B 合計	
	歸還	死亡	計	生存見込	死亡見込	死推定	狀況不明				
							有資料	無資料	小計		
愛知	5,517	22,816	28,333	2	4				52	58	28,391
静岡	3,550	16,510	20,060	9	8				44	61	20,121
岐阜	3,323	13,043	16,366	9	7				23	39	16,405
三重	5,439	21,018	26,457	0	5				7	12	26,469
石川	3,124	5,552	8,676	3	8				9	20	8,696
富山	2,552	5,903	8,455	0	3				6	9	8,464
計	23,505	84,842	108,347	23	35				141	199	108,546

その三 全地域

世 話 課 別	A 當月末迄處理済計			B 當月末迄復員數						A+B 合計	
	歸還	死亡	計	生存見込	死亡見込	死推定	狀況不明				
							有資料	無資料	小計		
愛知	20,947	25,704	46,651	251	53	0			1,217	1,521	48,172
静岡	16,473	18,992	35,465	185	81	2			1,045	1,313	36,779
岐阜	11,744	14,633	26,377	129	72	2			600	803	27,180
三重	12,850	22,124	34,974	121	30	0			464	615	35,589
石川	9,915	6,367	16,282	133	132	0			513	778	17,060
富山	10,978	6,743	17,721	133	81	0			425	639	18,362
計	82,907	94,563	177,470	952	449	4			4,264	5,669	183,139

課別	三	一	一	一	外
部隊名	歩三六一連	歩三八三連	歩三四七連	独歩七八五大	邦人調査 主任者會議
担任	(留)	(留)	(留)	(担)大分 (2)	(外)
日次	(8) 9. 10	(16) 17 18	(20) 21 22	(29) 30 31	14 15
場所	佐賀	長崎	熊本	由布	鹿児島
派遣者(調査官)	主任事務官	主任事務官	主任事務官	第一調査班長	業務課長
備考					一、期計画の説明研究(第一回) 二、鹿児島(邦人調査業務 現場研究(第二回))

四 管内各誌課業務支援格援助並指道守等について

熊本各誌課業務視察實施

一月十七日、十九日に亘る間局長は第一調査班長及整理班長を帯同して熊本各誌課の業務を視察すると共に主として調査原簿に基き其の調査要領を置等と就て述べ

接援助並研究を實施し且旧覺書其他手持諸資料等に基づく調査要領等について
説明指点了した

2 覺書其他の諸資料による一部古語課の母資料者を対象とする調査及古語課死
藏函覺書による有資料者を合せて全員に対する總当り作業は引續ぎ之を實施して
居るが尚相當の成果あり其の都度關係古語課に通報して居る

五 邦人調査について

一月十四・十五日の二日間鹿兒島縣湯の元及鹿兒島古語課に於て外務省主宰下
の邦人調査關係主任者九人のブロック會議を實施せられたるが当局より業務課長
を出席せしめた(三、表の未欄)

外務省竹中事務官の主宰下で第一日は湯の元に於て討議其他の説明並懇談
研究を第二日は鹿兒島古語課の現場に於て邦人調査に關する業務研究を實施
せられたるが從來に無い充実した研究で出席した皆管内關係者は益する所少なく
なかつたものと信ずる 尚當管内に於ては邦人調査の實質上の主務課は大分、長崎
を除く外は古語課であつたが 特殊な存在であつた大分、長崎両縣も近々該業

0246

務を全面的に子語課が受持つ態勢となるか両古語課とも復員調査に努める陣
容が必ずしも強力でないが、又に伴う人員其他の裏付けが問題であると思はれる

0247

世話課別復員状況一覽表 之一 (以直關係地域)

西、復、局
昭和三十七年7月末迄

附表第一〇一

世話課別	A 当月末迄處理済累計			B 当月末迄復員数							A+B 合計
	飯還	死亡	計	生存 見込	死亡 見込	死亡 推定	状況不明			計	
							有資料	無資料	小計		
福岡	22,448	2,583 ⁽¹⁾	25,031 ⁽¹⁾	368	163	0	(1,234)	(503)	1,737	2,268	27,300
佐賀	6,540	1,063	7,603	138	48	2	(483)	(209)	692	880	8,483
長崎	8,313	1,154	9,467	182	57	3	(571)	(224)	795	1,037	10,504
熊本	15,931	2,131 ⁽²⁾	18,062 ⁽²⁾	262	100	2	(1,264)	(299)	1,563	1,927	19,991
大分	10,422	2,218	12,640	162	8	0	(598)	(92)	690	860	13,500
宮崎	7,650	1,098	8,748	103	28	1	(595)	(135)	730	862	9,610
鹿児島	15,182	2,380	17,562	255	121	5	(1,089)	(180)	1,269	1,650	19,212
〔四大島以外数〕	{ 1,030 }	{ 145 }	{ 1,175 }	{ 15 }	{ 7 }	{ 0 }	{ 105 }	{ 26 }	{ 131 }	{ 153 }	{ 1,328 }
計 大分を除く	86,486	12,627 ⁽³⁾	99,113 ⁽³⁾	1,470	525	13	(5,834)	(1,642)	7,476	9,484	108,600

世話課別復員状況一覽表 其の二 (連關係以外)

西 復 局
昭和27年1月末調

附表第一〇二

世話課別	A 当月末迄處理済累計			B 当月末 未復員 数					A + B 合計		
	飯 還	死 亡	計	生存 見込	死亡 見込	死亡 推定	状況不明				
							有資料	無資料		小計	
福岡	11,039	32,243	43,282	4	25				106	135	43,417
佐賀	2,768	10,829	13,597	1	11				11	23	13,620
長崎	4,334	15,132	19,466	6	16				30	52	19,518
熊本	11,926	24,460	36,386	3	2				79	84	36,470
大分	8,835	10,763	19,598	6	3				1	10	19,608
宮崎	3,494	10,119	13,613	1	4				26	31	13,644
鹿児島	4,963	18,169	23,132	1	3				79	83	23,215
{内大島外除}	{ 255 }	{ 1,152 }	{ 1,407 }	{ 1 }	{ 0 }				{ 35 }	{ 36 }	{ 1,443 }
計 大島を除く	47,359	121,715	169,074	22	64				332	418	169,492

0249

世話課別復員状況一覽表 第三(全地域)

附表第一の三

西、復、局
昭和27年1月末調

世話課別	A 当月末迄處理済累計			B 当月末迄未復員數					A + B 合計	
	飯 還	死 亡	計	生存 見込	死亡 見込	死亡 推定	状 況 不 明			計
							有資料	無資料		
福岡	33,487	34,826 ⁽¹⁾	68,313 ⁽¹⁾	372	188	0		1,843	2,403	70,717
佐賀	9,308	11,892	21,200	139	59	2		703	903	22,103
長崎	12,647	16,286	28,933	188	73	3		825	1,089	30,022
熊本	27,857	26,591 ⁽²⁾	54,448 ⁽²⁾	265	102	2		1,642	2,011	56,461
大分	19,257	12,981	32,238	168	11	0		691	870	33,108
宮崎	11,144	11,217	22,361	104	32	1		756	893	23,254
鹿児島	20,145	20,549	40,694	256	124	5		1,348	1,733	42,427
()内大島、外島	{ 1,285 }	{ 1,297 }	{ 2,582 }	{ 18 }	{ 7 }	{ 0 }		{ 166 }	{ 189 }	{ 2,771 }
計 大島を除く	133,845	134,342 ⁽³⁾	268,187 ⁽³⁾	1,492	589	13		7,808	9,902	278,092

0250

附表第二
A表地域別復員状況一覧表

復員状況一覧表

西、復、局
昭和27年1月末調

地域別	区分	A 處理 數			B 未 復 員 數						A + B 合計	
		斃 還	死 亡	計	生存 見込	死亡 見込	死亡 推定	状 況 不 明				計
								有資料	無資料	小計		
(1) 連 地 域 係	前月末總數	86,485	12,538 ⁽³⁾	99,023 ⁽³⁾	1,471	561	11	(5,814)	(1,720)	7,534	9,577	108,603
	当月處理(増減)數	+1	+89	+90	-1	-36	+2	(+20)	(-78)	-58	-93	-3
	当月末總數	86,486	12,627 ⁽³⁾	99,113 ⁽³⁾	1,470	525	13	(5,834)	(1,642)	7,476	9,484	108,600
(2) 連 地 域 係 及 地 域 外 の 明	前月末總數	47,358	121,707	169,065	22	69				332	423	169,488
	当月處理(増減)數	+1	+8	+9	0	-5				0	-5	+4
	当月末總數	47,359	121,715	169,074	22	64				332	418	169,492
(3) 全 地 域	前月末總數	133,843	134,245 ⁽³⁾	268,088 ⁽³⁾	1,493	630	11			7,866	10,000	278,091
	当月處理(増減)數	+2	+97	+99	-1	-41	+2			-58	-98	+1
	当月末總數	133,845	134,342 ⁽³⁾	268,187 ⁽³⁾	1,492	589	13			7,808	9,902	278,092
備 考		増	減	計								
	(2)地域 増減状況	(1)地域 +3 新把握+2	邦人削除 -1	+4								

0251

尚本人應召後常に同行動、同時入ソ、以テホロスカヤより伊藤逆送のため
別れたこと判明す

又同回答中に伊藤清と云れ逆送に付た同僚、鹿児島打岡嘉吉發信
此の資料提供者受信の伊藤清の死を記載した手紙を同封し来る

10. 前記死亡資料保有者に対し現認書調製を依頼した所逆送経路の詳細を
附記し伊藤清は榮養失調のため、15頃古茂山の野外川邊にて倒れ約三
分後死したとの現認書を送付し来る

11. 前記保管の第四號遺骸は本人であることが確實となつたので之の移管を
受け内容調査の結果遺骸の紙包表面に「兵長伊藤清み、6.30午後二時
三十分死亡」とあり、正確な死亡日時判明す

所見

1. 現認書による資料は必ず再確認を要する(第七號)
2. 葬儀復員部で再調査せられた現認書中には有力な資料がある(第八號)
(収束)

二根氣塔く所属部隊と究明した事例
第五國境守備隊近藤長一の調査経緯

本人は現地入隊で無資料であり且つ所属不明であった

2. 昭和24年留二調第一〇九號により本人の所属を三五旅挺大(長野世合
調による)と通報されたので所属を変更し尔来同部隊の面を主として通

信調査を繼續実施中であつたが何等手懸りを得られなかつた

3. 昭和26.8.「某」官署の調査により昭和20.9.ライテハ第二支隊入ソ確實し
との資料を送付されたので、その資料提供者に写真と附し再照會した
ところ本人を知らぬとの回答を得た

4. 前資料にかかわらず既に本人の所属に疑問を抱いていたので昭和26.8.留
部に於ける究明會同参加の機會に第五國境守備隊の留守石簿中より
第三中隊(本人の所属中隊)の同年兵全部を抽出し来り夫々本籍世話課
に照會して現任所を調査し、之れに照會した結果左の資料を得た

昭和20.7.編成改正に陰し共に歩三九連歩兵砲隊(須田隊)に轉属日ソ開
戦と共に勝山陣地に登り約一週間對戦、十五日撤送れ方つても其に行動した
が十六日ソ軍に遭遇し戦状態となり其の際本人は行方不明となつた

所見

所属部隊に疑つたものの調査は勞とおしませ徹底的に續行すべきである

(改草)

0253

一戦友の遺族に於て調査を徹底し遺決の端緒を得たる事例
第三航空通信連隊相宮榮(遺決済者)の調査経緯

一八一屆による基礎資料

不訂職 岐阜郵便局京線通信手

口船和八、六、軍属として内地出發

八船和八、九、満七五八の部隊より通信あり(固定通本) (改) 関東軍通信司

二船和八、一〇、満七五八の部隊より小包が留守宅へ到着した(一一固定通) (改) 関

東軍一連隊)

二右資料に基いて関東軍通信隊所屬者として調査に着手したが資料が得

られなかつた

三、其の後船和八、二回留守宅を調査した結果小包に南方へ出發する旨の

手紙が入っていたこと及び岩田母一より船和八、飛行機によりサイパンに出發し

たと聞いたとの資料を得たる為南方に移管調査を依頼した

四、船和八、三より船和八、五まで比島及南方通信隊に於て調査したが不明であ

り、尚サイパンは同月既に入破後であり該當しな事柄が判明し再び北方へ

移管を受け関東軍通信隊所屬者として調査と實施した

三

5. 更に留守宅を昭和25.3.14調査した結果出發前同僚5名記念撮影した写真と発見したので當時岐阜郵便局在勤者について写真と提示して調査した結果3名の氏名が判明したが何れも比島に於いて戦死處理済者であつた

6. 昭和25.8.12より遠く斎着の軍歴及び公報諸元について前記の遺族を調査(一名招致他は通信)したところ数名の同一行動者を掌握し得たので通信採訪招致調査を實施して得た綜合判決は次の通りであつた。
(調査書約30件による)

1. 本人は19.10.10 新京發海路(他の者は飛行機)マニラに上陸(甲)

2. 其の後クラーク飛行場通信隊勤務となつた(乙)

3. 昭和25.11.比島三航通連所屬者として留守宅に調査を依頼した結果26.6.7.20

5.11.クラーク西万山中にて戦死と認定された
所見

留守宅より世話課に於いて調査しても判明しないから調査を中止して死亡公報と發行してくれと申出のあつたものであるが留守宅調査と同一行動をしたと思われぬ遺族の調査に徹底して處決の端緒を得た例である(岐阜)

一、在滿部隊通稱號一覽表を各部隊の所屬未歸還者に對し推定部隊歸還者の芋蔓式通信調査を實施して死に確證書を収集した事例

第二三師團衛生隊本部田中莊太郎(近、處理塚芝)の調査経緯

一本への八二番又三一番には滿洲一八二部隊福山隊としてある

二、他面留守名簿の全國索引に依り調査した結果第二航空軍司令部八三二部隊と判明した

三、前二號の異りたる所屬部隊が判明したので最初滿洲第一八二部隊(歩兵第九の連隊)と所屬部隊と假定し該隊復員者十数名に對し通信調査を實施した結果該隊は福山隊はなく且本人の消息資料は入手出来なかつた

(第三課關係)

第一號の部隊に於いて調査する事の不能なるを考へ、第二號の第二航空軍司令部と決定し二十数名に對する通信調査を實施したがこれ又何等手掛りを得られなかつた(航空關係)

四、昭和22/10頃再度留守宅に對する細部状況と調査した結果左の事項が判明した

一、本人の妻も現地没落し引揚がなものである

ハ昭和六ノノ頃約五名の戦友と共に満洲一八一部隊より轉属した

轉属の際白城子駅を通過した時に見た

其の後の便りにハイラル九五五部隊であると知る

ハ昭和六ノノ頃門司平岡町より印刷工に依る通信のり

(通信又は引揚途中紛失した)

以上の如き資料と入手し満九五五部隊と判明したので該隊を索引に依り

調査するも其在の有無は判明しなかつたがハイラル部隊より内地又西南

方に轉用されたのではないとの判断のもとに調査と續けた(第二課関係)

5. 昭和六ノノ南の轉用部隊所屬の公算大なるの企畫課所屬不明班に於て

所屬部隊の究明を担當すると共に銳意所屬の索出に勉められたが新なる

手掛りを得なかつた

6. 昭和六ノノ留比第九二號に依る第二三師団衛生隊關係の資料を委細に檢

討し歩九の連隊との関連あるものと判断されたので全面的に第二三師団衛生

隊の調査を開始した

7. 該隊の歸還者十数名について通信調査をした結果、数名の者より左の好資料

保有者の提供を受け該者ら通信調査をした結果一擧げに死亡確認書と得るに

到つた

福岡縣小倉市白銀町二丁目村井ルイ子五元陸軍准尉 同實利雄

昭和19.11.11.ハイル九五五部隊より約50名満三三部隊に轉属

" 19.11.11.満三八三部隊より約50名旭二八八部隊衛生隊に轉属

" 19.11.3.釜山這部隊と一対に移動

" 19.11.11.部隊編成替で田中莊太郎は本部の經理部勤務となる

" 19.11.11.内地門司港に向う途中佐世保に渡更佐世保寺島水道より秋

津丸に乗船出發

" 19.12.7.午前四時半頃魚雷攻撃を受け海没と同時に戦死と確認

8.昭和26.6.15.留比第九二境の資料と若干相違する点があるので再總會中

所見

入手した資料にはおぼ満九五五部隊は在満部隊一覽見表に記載されていないが
實在していた様子であり通信に依る芋蔓式調査も現況に於いては有る
る調査手段である (岐阜)

五.留比留宅調査を反覆實施した結果新資料を入手した事例

特殊米歸宅者後藤正美について調査経緯

0258

本人は中野憲兵學校教習隊第二中隊に第二期下士官候補者として入校
終戦當時には教習隊附として勤務す

本人の状況不明の特殊未歸宅者となりたる當時の経緯は左の通りである
昭和20.5.2.學校より滋賀縣醒ヶ井駅迄出張其の歸校途中関ヶ原駅
に於て途中下車留守宅に三寄り(約六時間程話をした)歸校した

昭和20.9.5.名古屋憲兵隊附の轉属命令が来た

昭和20.9.4.同期生原保男と一緒に中野駅にて切符と購入し手廻り荷物を
留守宅に送付し原は九月五日の午前六時後藤は同日の午前七時の列車
にて赴任することを約束した

其の後の消息全く不明

3. 八一屆及三一屆提出後當課より職員を依り又は通信等に依り留守宅に
對し調査の手掛りとなる資料の収集と数回實施したが之が目的は充分に
達せられなかつた

其の後當課の調査方針としては中野校の好資料保有者を掌握し支等の
ものに對する通信調査を實施した(約二十数名)が成果は殆んどなかつた

4. 昭和26.2.2.頃中復名古屋支部及愛知縣世話課に對し中野校より東海地区

の憲兵隊に受入れたる人員中後藤正善の消息を承知してゐる。推定される資料保有者の通報を受けた人員は約三十数名で之等の者に対して通信調査と實施した資料としては一部入手した。精査した結果確證と認められるものばなかつた。

5. 教度の留子宅調査にも拘らず引續き殆ど、更に調査と實施した結果終戦後の在隊者の運名簿を發見されたので之に基き百二十数名に對し通信調査を實施し次の成果を得たので引續きこの裏付資料を収集中である。

公務死(名古屋憲兵隊轉属途中) 場所横浜駅附近東海本線路上にて
所見

留子宅に對する細部の調査資料入手の爲根氣強く調査を實施すること
が肝要である。
(収集)

0260